

序

麻酔の専門性が高まり、「心臓麻酔」「産科麻酔」「小児麻酔」などの subspeciality の知識の必要性が麻酔専門医にも必須になってきた。日本麻酔学会認定施設の調査では、麻酔専門医に必要な心臓麻酔経験症例数について、50～100例が38%、25～50例が37%、100例以上が19%、10～25例が5%などの回答があり、麻酔専門医の新規受験者に subspeciality の症例数のある程度の経験を付記することが検討されている。将来心臓血管手術に直接関わるものがなくとも、心疾患のある非心臓手術麻酔を担当することも多く、麻酔専門医を目指す先生方にはある一定水準の循環管理の技術や知識の学習が必要である。

心臓麻酔領域で行われている循環モニタリングや薬剤の知識ならびに技術を心臓血管麻酔の経験から得ることは貴重である。麻酔専門医を目指す麻酔科医が短期間で効率的な経験をを得るためには、教育する側にも工夫が必要であるが、心臓手術が多施設に分散している現状では、その知識習得は簡単ではないと考えられる。TEEの試験であるJB-POTから心臓血管麻酔専門医が設立され、心臓麻酔領域における知識量は膨大となっているが、本書はまず心臓麻酔の知識の基礎となるべき内容を凝縮し、心臓麻酔のスタート地点につくための minimum requirement を網羅している。心臓麻酔の入門書でありつつ、周術期管理にすぐに参照できる実践書であるので、ぜひ白衣のポケットに携帯してお役立ていただきたい。一方で、この一冊で心臓麻酔のすべてをみたくすることは難しいため、さらなる知識は成書で補充していただきたい。

2012年2月

編者を代表して
野村 実